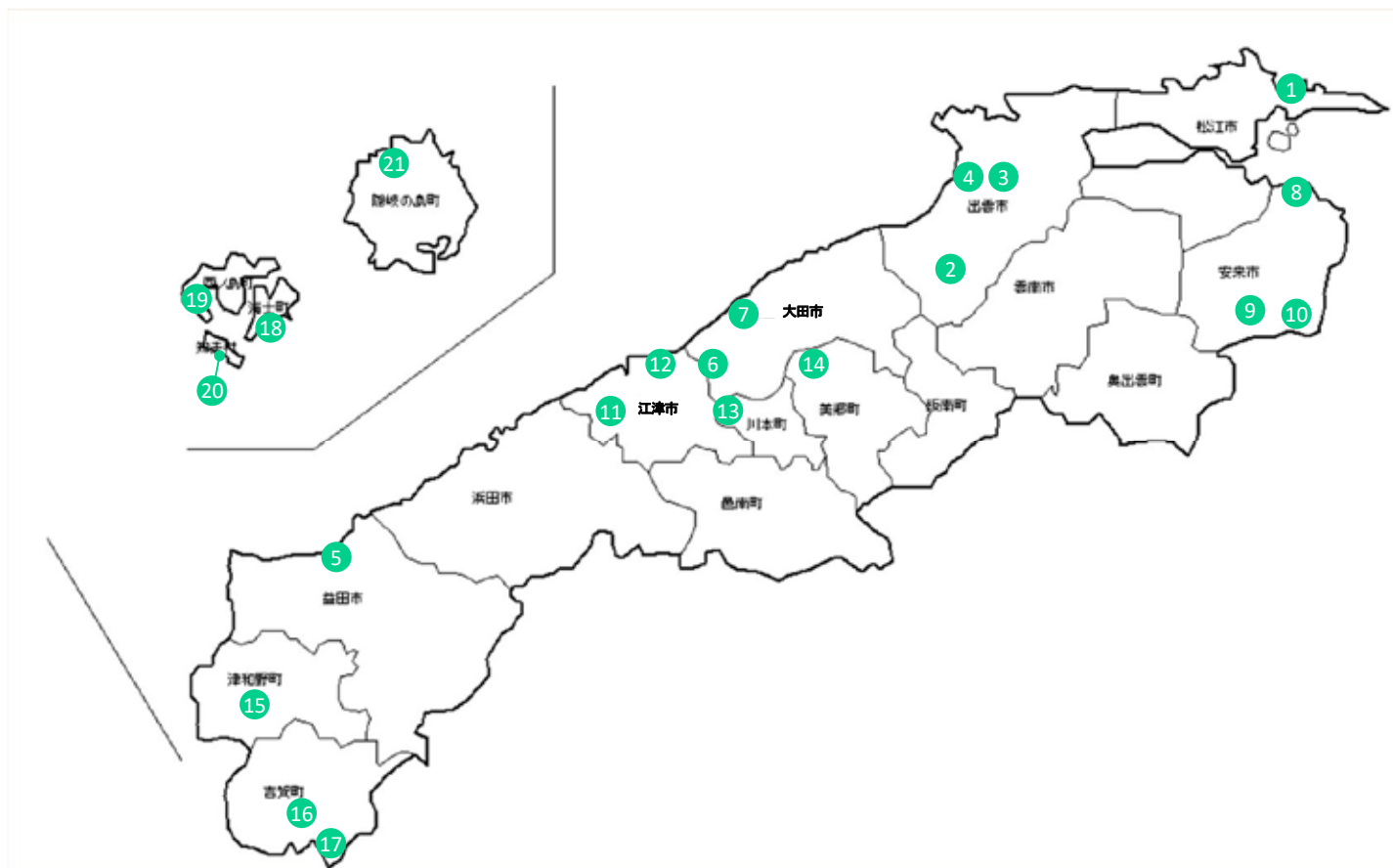


島根県

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定) 応募地区(者) 一覧 (島根県)

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取組		
①	地方 奨励賞	個人	松江市	青戸 裕司 (かたゑ庵)	移住・定住	高齢者の活躍	その他(アドベンチャーツーリズム)
②		個人	出雲市	伊藤 学 (カウベルミルクガーデン牧場 株式会社)	農業	6次産業化	食育・教育
③		個人	出雲市	江角 俊則 (江角アトリエ代表)	農村文化体験	伝統の継承	雇用
④		団体	出雲市	株式会社オリーブ園・夢創庭	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑤		団体	益田市	特定非営利活動法人よつばキッズスクール	農業	農村文化体験	食育・教育
⑥		団体	大田市	井田地域自治会	多様な分野との連携		
⑦		団体	大田市	西田ヨズクハデ保存会	農村文化体験	伝統の継承	関係人口の創出
⑧		個人	安来市	大森 雄介	6次産業化	教育機関との連携	その他(国際交流)
⑨		団体	安来市	シバザクラの会	移住・定住	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑩		団体	安来市	新田谷活動組織	教育機関との連携	食育・教育	
⑪	地方 奨励賞	団体	江津市	跡市環境保全組合	農村文化体験	伝統の継承	教育機関との連携
⑫		個人	江津市	深町 桂市	6次産業化	荒廃農地対策	鳥獣被害防止
⑬		個人	川本町	山口 瑞恵	農業	6次産業化	女性の活躍
⑭		団体	美郷町	美郷町地域おこし協力隊 チーム「シンマイ」	地産地消	移住・定住	関係人口の創出
⑮		団体	津和野町	麓耕自治会	農村環境・景観保全		
⑯		団体	吉賀町	注連川の糧	伝統の継承	教育機関との連携	農村環境・景観保全
⑰		団体	吉賀町	農事組合法人 立河内絆	農業		
⑱	地方 奨励賞	個人	海士町	吉川 岳	水産業	地産地消	環境保全(農林水産業・食品産業)
⑲		個人	西ノ島町	中上 光	水産業	雇用	その他(地域資源の活用)
⑳		個人	知夫村	岡田 紗和	6次産業化		
㉑		団体	隠岐の島町	南風	企業との連携	雇用	移住・定住

応募地区（者）所在市町村図（島根県）



地方
奨励賞

あおと ゆうじ あん
青戸 裕司（ゲストハウス かたゑ庵）
ありのままで魅せる、その漁村は歓交地に

概 要

- ジオパークを活かした環境負荷のないアクティビティの提供や築100年の古民家を改装したゲストハウスでの宿泊、地域住民の自宅で夕食を提供する「民食」を実施。
- カヤックレースなど、地域住民を巻き込んだイベントの開催。
- GoProカメラや360度カメラで撮影した動画提供のほか、洞窟学会による洞窟調査から得られた知見をカヤックツアーに活かすなど、認定ジオガイドとして地域の観光資源の魅力を発信している。



5年間の取組



カヤックで洞窟巡り



3人乗りカヤックツアーの様子

〒690-1315 松江市美保関町片江396
0852-55-8600 info@kataean.com

関連情報はこちら▶



いとう まなぶ ぼくじょうかぶしきがいしゃ
伊藤 学（カウベルミルクガーデン牧場株式会社）
自然も丸ごと楽しむ牧場の6次産業化

概 要

- 平成18年に牧場直営の米粉パン専門店の「牧場のパン屋さんカウベル」をオープン。
- 地元営農組合と連携して、牧場堆肥の使用から米粉用米の生産と地元産の野菜・果物をパンに利用することで地域資源の活用に取り組み、令和6年6月にはジェラート工房を新設し、酪農の魅力発信と地域活性化に取り組む。

成 果

- 「酪農教育ファーム」認証を取得し、幼稚園・保育所、小学校、養護施設、子供会、各種サークルなど、様々な方と牧場での牛とのふれあい体験や、バター作り・ピザ焼き体験を行い、食育活動の一環として、これまでに2万人以上の方々と交流。
- 中山間地の人口2,700人の小さな町で10人余りの雇用を創出。
- 地元の中学生や高校生の食育・職業体験を受け入れることで、若者の地域定住化を図る。



牧場のパン屋さん カウベル店内



バター作り体験の様子



仔牛とのふれあい体験の様子

〒693-0506 出雲市佐田町反辺601
0853-84-0391 itodairyfarm@m1.izumo.ne.jp

関連情報はこちら▶



えすみ としのり えすみ だいひょう
江角 俊則 (江角アトリエ代表)
 世界を繋ぐ古民家と茅葺

概要

- 平成19年に江戸期の古民家をリフォームして設計事務所と民泊事業を開始。
- 平成29年に今後の葺き替え作業存続の危機感から、身近な河川等に自生している未利用の葺を地域住民と連携して刈り取りストックする活動を開始。そのシンボルとして古民家に小さな茅葺の小間を新築。

成果

- コロナ禍で途絶えた民泊利用者が今年3月からはコロナ以前より増加（3割程度がインバウンド）。
- 週末だけでなく、ひと月の半分は宿泊者が滞在していて、リモートワークなどにも活用。
- 囲炉裏、五右衛門風呂、かまどなどの懐かしさが日本人の共感を呼び、茅葺建物は日本だけでなく外国人観光客からも好評。



芝屋根と茅葺の小間を増築



民泊に活用している土間と奥に囲炉裏の板間



毎年3月の晴れた週末は神西湖で茅刈り

〒693-0031 出雲市古志町2571
 0853-31-8211 to.e.atelier@gmail.com

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ えん むそうてい
株式会社オリーブ園・夢創庭
 幸せの雫 出雲産オリーブオイル

概要

- 平成26年にぶどうハウスの廃園や休耕園の有効活用と地域活性化を目的にオリーブ92本を植栽・栽培を始める。
- 自社工場で24時間以内に搾油した良質なエキストラバージンオリーブオイルを商品化。
- 令和4年に出雲市の推奨商品「おいしい出雲」に認定登録され、出雲市の特産品となる。

成果

- 年間を通じて曇りや雨が多い島根県においてもオリーブの木は成長。令和6年時点で栽培面積4.5ha、2100本に拡大。
- 収穫量も令和元年の800kgから令和5年は2,400kgに増加。
- 島根県においてのオリーブ栽培は、周辺地域からも関心が高く、視察の問い合わせがあるなど地域の活性化に寄与。



オリーブ園での収穫の様子



収穫前のオリーブ



オリーブの搾油とオリーブオイル商品

〒699-0822 出雲市神西沖町1687-11
 0853-43-1218 masaki@itoga1218.jp

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人よつばキッズスクール
 「未来のお米ヒーロー」

概 要

- 令和3年に益田市で地域初の民間学童施設として運営を開始し、翌年NPO化。当地は少子高齢化で地域交流の希薄化や農地の荒廃が進行中。里地里山を通して地域の大人と子どもたちの関係を深めると共に、地域の自然の豊かさや大切さを学んでいる。
- 昔ながらの手植えと農業機械を使用した現代農業も行うことで、農作業の大変さを感じるとともに、機械の導入による省力化や効率向上についても学び、未来の農業について考える取組を行っている。



田起こし：トラクターに同乗して、作業



育苗箱作り：床土と肥料、種を入れていく



田植え：手植えと田植え機で作業

成 果

- 農業を通して地元への興味関心をもち、食べ物を作る大変さを学ぶことで感謝する心の育成（食育）につながっている。
- 一年間の稲作体験で田んぼ探索や泥の感触を楽しむ手植えを行いながら、多くの生態系や豊かな自然が守られている生物多様性について学んでいる。
- 地域の大人や友達と関わることで協調性や社会性を育み、中長期的な交流活動として波及している。

〒698-0025 益田市あけぼの西町9番地15
 090-7723-0428 yotsubakids428@gmail.com

関連情報はこちら ▶



い だ ち い き じ ち か い
井田地域自治会
 地域の足は、自分たちで守る！！

概 要

- 令和元年から山間部の井田地区と温泉津町中心部をつなぐ「定額乗合タクシー」を運行開始。AIが利用者の発着時間を調整し、効率良く乗り合うため定額乗り放題で利用可能。同時に、高齢者の運賃負担軽減のため地域で儲ける仕組みを検討するワークショップを開催し方策を議論。
- 令和4年に地域特産品の販売を行う「企業組合井田屋」を創設し、地区に伝わる焼肉のタレを商品化。住民の裁縫技術を活かした製品を小さなビジネス事業として展開。地元の竹を使ったかごなど竹製品を制作・販売。

成 果

- 乗合タクシーに乗り合うことで数十年ぶりの同級生との再会、温泉や友達の家など楽しみのための移動にも活用され、地域イベントへの参加が増加し住民交流が大幅に増加。
- 地区住民は小さなビジネス活動も乗合タクシーで参加するなど、地域交通と住民交流の場が整備されたことで取組が継続。今後も地域に関わりを持つプレーヤーを増やししながら、地域住民の生活機能を支える生活プラットフォーム構築を目指す。



タクシーに乗り合う利用者



企業組合 井田屋メンバー



古布で作るクッションカバー制作の様子

〒699-2507 大田市温泉津町井田口255番地
 0855-66-0016 idaya@ginzan-tv.ne.jp

にしだ ほぞんかい
西田ヨズクハデ保存会
 農芸文化を活かした農村交流でヨズクハデを後世に

概要

- 高齢化による稲作農家の減少により、以前は100基あった伝統農法の稲ハデ「ヨズクハデ」も4戸の農家が立てるのみとなっていたが、その製作技術を後世に残すため平成17年に「ヨズクハデ保存会」を設立（耕作者4戸、構成員10名）。
- 活動に賛同する夢のある米作り・酒造り集団「酒仙蔵人・五郎之会」が構成員として参画し、地域活性化につなげている。
- 「ヨズクハデ」の製作を含めた農業体験活動を通じ、都市交流活動や小学生への体験学習による伝統農法の継承を行っている。

成果

- 活動の継承により、銀山街道ウォークや写真愛好家のスポットとして訪れる人は年々増加傾向にあり、秋の風物詩として定着している。
- 秋の刈り入れ時期には、遠くは関東地方からも農作業体験への参加があり、棚田米や西田葛など銀山街道の歴史に触れることで、地域活性化に繋がっている。また、「棚田まつり」の開催など、新たな活性化イベントや主食用米等の定期販売にも結びついている。



田植え体験の様子



「ヨズクハデ保存会」稲ハデ掛けの様子



「酒仙蔵人・五郎之会」による都市農村交流

〒699-2503 大田市温泉津町西田370
 0855-65-3232 st5419@ezweb.ne.jp



おおもり ゆうすけ
大森 雄介
 くるもの拒まず、去らせない

概要

- 安来市に移住後、研修を経て平成30年に就農。農業の付加価値を高めるため、生産者と消費者の距離を縮める農家のオープン化を理念に国際交流プログラム等を実施。
- 国際交流プログラムは、アメリカの若者の農業・田舎体験、文化交流を企画し、令和元年から春と秋の年2回約1か月の期間、5、6名程度の若者を受入れている。
- 安来のいちごの商圏で、いちご狩りの強いニーズがあったが受入先がなかったため、令和2年にいちご狩り園を開園。

成果

- 国際交流プログラムは、8回40名（予定を含む。）が参加しており、受入農家は、作業の手伝いを得ることができた。また、学生は直接ネイティブと会話する貴重な機会を得ることができ、農業を通じて地元で世界とつながれることを実感できる。
- いちご狩り園は、地元メディアで話題となり、一気に「安来のいちご」全体のPRができた。現在では、いちご狩り園は5軒となり、企業参入も実現し、安来市において、まったく新しい付加価値を作り出した。来園者は開園当初の約2倍となった。



いちごのバック詰め体験



農林高校で開催した国際交流プログラム



いちご狩り園

〒692-0017 安来市下坂田町977-1
 070-6610-1438 yusuke.omori@farmomori.com

関連情報はこちら ▶



かい シバザクラの会

『今日もえーひだ』～シバザクラの里永田～

概要

- 棚田畦畔へのシバザクラ植栽活動により、草刈作業の省力化と農村景観を活かした都市間交流の輪を広域に展開し、更なる地域の活性化を図ることを目的にシバザクラの会を設立。
- 令和5年度までにシバザクラ10万本、花桃500本を水田畦畔等15,000㎡に植栽。
- 春の「猿隠高原シバザクラ祭り」は、SNS等で積極的に情報発信を行い、色鮮やかなシバザクラの花絨毯と地元の味のおもてなしで、県内外から約5,000人の来場者が訪れる。



満開に咲く棚田の急傾斜畦畔のシバザクラ



シバザクラ祭りは皆を笑顔に



改修した空家に新たな担い手を迎えた

成果

- 集落の女性を中心とした植栽活動は、次世代の若者、集落から転出した子、ボランティア等の参加で地域の活力を高めるとともに、近隣集落への横展開に結び付いている。
- イベントを起点として多方面から消費を呼び込み、関係人口の増加と地域活性化に結び付き、来場者からの緑化協力金による支援はシバザクラの美観維持に大きな効果をもたらしている。
- イベントのボランティアをきっかけに、集落の魅力に惹かれた学生2名が大学卒業後、集落の新たな担い手として定住した。

〒692-0733 安来市広瀬町東比田1041
090-7597-8219 a-sengoku@dojyokko.ne.jp

関連情報はこちら ▶



しんでんだにかつどうそしき 新田谷活動組織

ふるさとをつなぐ「世代間交流」

概要

- 安来市伯太町新田谷集落において、平成26年に設立し、多面的機能支払交付金を活用した農用地、水路等の地域資源の保全を行っている。
- 集落では少子高齢化が急速に進み、農業・農村の継承が課題となる中、地域資源の有効活用や次世代の地域を支える人材の育成、また、小学生との交流により地域に活力を生むことなどを目的に小学校と連携し休耕田を活用したサツマイモ栽培を10年前から開始。



サツマイモの収穫風景



協力して収穫



サツマイモを掘るコツを伝授

成果

- サツマイモの栽培は、苗植えから収穫まで毎年10～20名の小学生が参加。小学生からは、「作る大変さが分かったからこれからは残さず食べたい」や「大人になったら畑を作りたい」など手紙で感想が寄せられ、参加者のやりがいにもつながっている。また、小学校との連携は10年を迎え、地域資源に愛着を持った人材を着実に育成している。
- 活動には、公民館や外部団体の職員も参加しており、多様な人材の参画による活動の持続的な実施体制も構築している。

〒690-0876 松江市黒田町432-1
0852-32-4141 yoshiyama@shimanedoren.or.jp

地方
奨励賞

あといちかんきょうほぜんくみあい

跡市環境保全組合

住んで良し、訪ねて良しの故郷づくり

概 要

- 農地を守ることを目的として地域の農業者と11団体が構成員となり「跡市環境保全組合」を平成19年に設立。
- 地域内の全20集落と19団体で構成する「跡市まちづくり協議会」と連携し、2つの団体が地域の両輪となり活性化に取り組む。
- 伝統文化「花田植え」の伝承、古くから地区で利用されてきたわたの栽培による6次産業化と農業体験、地域のイベントを「跡市AITABI（あいたび）」に統合などを実施。

成 果

- 伝統文化の「花田植え」の伝承は、幅広い世代の交流の場となり農村コミュニティの強化につながった。
- 地域のイベントが「跡市AITABI」に統合されたことにより、地区内外の誰もが協力・参加しやすいものとなった。
- 地域資源を活用した体験や、地域の農産物による食事を提供することにより関係人口の拡大につながっている。



地域の伝統文化「花田植え」



わた摘み体験



跡市AITABI：卒業

〒695-0152 江津市跡市町625-1
0855-56-2107 atoichimatidukuri@gmail.com

関連情報はこちら▶

ふかまち けいいち
深町 桂市

過疎地の贈り物～放置果樹をブランドへ～

概 要

- 平成13年、都会での暮らしや仕事に疑問を感じ、妻が経営していた農園「NAO FARM」に参加するため島根県に移住し、様々な種類の放置果樹と出会った。
- 放置果樹を使ったジャム、シロップなどの加工品の製造販売を手掛け、平成26年より露店営業において提供を開始。消費期限が長い加工品のラインナップを増やして自然食品店に販売。

成 果

- 放置果樹を利用することで全国的に問題になっている鳥獣被害の低減、荒廃農地対策、農家の所得向上、フードロス問題の対策、珍しい果実を原材料に使うことでの商品の差別化、そして、子供たちと収穫、加工し共に食すことによる食育へつながっている。
- 地元行政、保育園、自治会などと良好な関係を築き、活動の幅が広がっている。



NAO FARM のお二人



放置果樹をみんなで収穫



加工品のラインナップ

〒699-2841 江津市後地町2396
090-4667-3402 keisun0910@gmail.com

関連情報はこちら▶



やまぐち みずえ
山口 瑞恵

ブランディングを通じての地方創生

概 要

- 平成29年に川本町の三原の郷どぶろく特区を活用し、民泊経営からどぶろくの製造に参入。平成元年には甘酒の製造を開始。
- 中山間地域の特性を活かした商品のブランディングが必要と考え、「mizu et rice」ブランドを立ち上げ。都市圏への販売を開始。

成 果

- 令和3年から、大阪からのIターン希望者を受入れ、食事を提供し、共に農業に従事している。
- 令和5年、mizu et riceの甘酒が国内大手航空会社の「初日の出フライト」のお屠蘇に採用されたのをキッカケに都市部の販路が拡大。令和6年度上半期で前年の売上げを上回った。



mizu et rice の商品



販売イベントの様子



Iターン希望者の受入れ

〒696-1226 邑智郡川本町大字田窪487
0855-74-0086 info@mizuetrice.com

関連情報はこちら ▶

みさとちょうちいき きょうりよくたい
美郷町地域おこし協力隊 チーム「シンマイ」
シンマイ×美郷町 未来を耕す新米パワー！

概 要

- 美郷町の地域おこし協力隊が集いチームで活動。任期終了後の定住への活路を見出すとともに地域活性化に貢献。
- 地域の特徴を活かしたイベント「千原温泉 美肌温泉祭り」を開催。地域資源の新たな価値を創出し、美郷町の魅力を地域内外に発信。

成 果

- 地域でのイベント開催により、隊員が地域との関係性を深め、継続して活動できる場の提供と地域に溶け込める基盤を創出。
- 地域資源を活用した商品は、地域のお祭りやマツダスタジアム（広島市）での出店などでも大好評。地域経済の活性化と美郷町の知名度向上に貢献。
- 美郷町から体験プログラムの募集と運営を任されるなど、関係人口の拡大にも貢献。



イベント：川遊び&かき氷祭り



マツダスタジアムでの出店



イベント：美肌温泉祭りとほたる茶屋

〒696-1141 邑智郡美郷町京覧原356
zoe.kana@gmail.com

ろくごうじちかい
麓耕自治会
つつじの里麓耕

概要

- 水田のは場整備によりできた急傾斜地の畦畔に、景観づくりを兼ねて平成9年につつじを15,000本を植栽。
- 中山間地域等直接支払交付金制度を利用して年2回畦畔の草刈りと個人による草刈りを2～3回行う。
- 毎年4月後半、鯉のぼり100匹を揚げる。
- 令和5年度から有料によるつつじの草刈りと鯉のぼり掲揚体験を実施。

成果

- 集落の近くには国道9号線が走り、JR山口線の無人駅（青野山駅）があり、つつじの開花期には県外ナンバーの車で賑わうようになった。
- 令和4年（第30回）しまね景観賞「景観づくり貢献賞」受賞。



つつじ開花と鯉のぼりの全景



地域住民による畦畔の草刈り



鯉のぼり掲揚作業体験

〒699-5607 鹿足郡津和野町耕田1109-1
0856-72-1500 seizan.murakami@gmail.com

しめがわ かて
注連川の糧

自然環境を活かした美味しい米づくり

概要

- 平成17年に自然環境を守る意思のもと有志で設立し、現在メンバーは10名。育苗から出荷までの一連の作業を分担し、良質米生産と省力化を図りながら、事業の有用性を情報発信。
- 独自の栽培基準K1（化学肥料及び農薬不使用）、K2（化成肥料不使用、農業3成分以内）を設け栽培に取り組む。
- 地元小学生を中心に参加者を募り、田んぼや水路の生き物調査を実施し、楽しく自然環境の大切さを学ぶ体験活動や、はぜ干し講習会を実施し、その効果と技の伝承に取り組んでいる。

成果

- 雑草、害虫対策や収量減等の問題はありますが、土壌は豊かになり、生き物も増え、米の食味は著しく向上した。平成18年より米の食味全国コンクールに出品し、最優秀賞を多数回受賞し、栽培方法や良食味産地としての裏付けとなっている。
- 一大イベントの「収穫祭」には多くの参加者（50～70名）があり、味比べクイズやコンサートを実施し、皆で収穫を喜びとともに、美味しい米づくりの評価と課題検証を行い、メンバーの技術向上と生産意欲を高める場となっている。



生き物調査の参加者



子供たちが生き物調査をしている様子



はぜ干し講習会の様子

〒699-5517 鹿足郡吉賀町注連川1241
0856-78-1218 asakura@kominkan.town-yoshika.ed.jp

関連情報はこちら ▶



のうじくみあいほうじん たちごうちきずな
農事組合法人 立河内絆
 深めよう絆 繋げよう未来へ

概要

- ほ場整備を契機に法人を設立（現在の組合員数は26戸）し、平成30年から、除草剤の削減を目的にアイガモ農法に取り組む。
- 田植えの10日後、10a当たり10羽のアイガモのヒナを放鳥。
- 令和2年度に有機JASと島根県のGAP（生産工程管理基準）認証制度の「美味しまね」を取得、令和4年度にはより高い水準の「美味しまねゴールド」を取得。

成果

- アイガモ農法の面積は、地域の協力により、平成30年度の3.6haから令和6年度には約2.4倍の8.8haに増加。
- 収穫された有機JAS米は、町内の学校給食に使用される他、県外の生協や卸売業者に「鴨ん米米（かもんべいべい）」として出荷、慣行栽培米の約2倍の価格で取引され、所得向上を実現。



到着後のアイガモのヒナの様子



害虫駆除と除草作業をするアイガモ



「鴨ん米米（かもんべいべい）」のパッケージ

〒699-5514 鹿足郡吉賀町立河内833
 090-1013-2657 jinde032117m@helen.ocn.ne.jp

地方
奨励賞よしかわ たかし
吉川 岳

世界一の漁師 いただく命を料理人にバトンタッチ

概要

- 海士町で素潜りの魚突き漁師になって7年、目に見えて海の中が変化していくことを感じ、資源管理への思いを強くし、必要な数だけ突くことに（1尾～5尾/日）。
- 脳メ・血抜き・神経メ・胃洗浄・冷やしこみを行うことで鮮度を通常の3～4倍長持ちさせることが可能に。輸送にかかる離島のハンディキャップを魚の熟成時間に変える。その品質が認められ、地元のホテルの他、ミシュラン三ツ星レストランなど、国内トップクラスの店舗と取引を行っている。

成果

- メディアへの出演（NHKアカデミア）や講演（日本サステナブル・レストラン協会ほか）、企業研修の講師として活動するほか、イタリアで開催された食の祭典「テッラマードレ・サローネ・デル・グスト」にSlow food Nippon日本代表として参加。
- 高品質化により市場価格の約3倍の単価を実現（例：インダイ1,500円/kg→5,000円/kg）。個人営業及びロコミで販売が広がり、コロナ禍明けから売り上げが増加。



地元小学校での命の大切さを伝える授業



オーガニックの母、アリス・ウォーターズ氏との出会い



海中で行う脳メ・神経メ

〒684-0412 隠岐郡海士町御波798-4
 080-3844-6411 gaku.fisherman@gmail.com

関連情報はこちら ▶





なかみ ひかり 中上 光

隠岐の豊かな海で育む『隠岐のいわがき』

概要

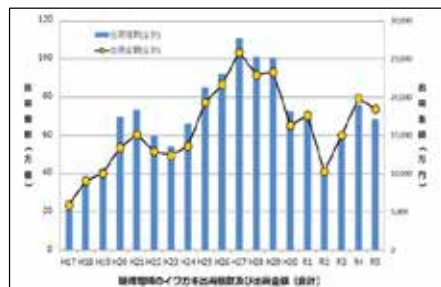
- 昭和53年にイタヤ貝養殖を開始後、地元の海に生息していた天然イワガキに着目。島根県水産技術センターと連携し、平成4年、苦難の末に全国で初めてイワガキの完全養殖に成功。
- 近年、イワガキ養殖生産者の高齢化が進み、後継者育成が急務であるため、島根県と担い手協定を締結。UIターナーの受入体制を強化するとともに後継者育成にも尽力。
- 全国的にも厳しい「隠岐のいわがき衛生管理マニュアル」を策定し、安全・安心な生食用イワガキとして高い評価を獲得。



イワガキ完全養殖に成功した中上光氏



ブランド化に成功した「隠岐のいわがき」



隠岐地域のイワガキ出荷個数・金額の推移

成果

- 完全養殖の成功によりイワガキ養殖は隠岐4島に広がり、今では2億円産業にまで成長。所得の向上と地域の雇用創出に大きく貢献。
- 中上氏から始まり隠岐地域で大きな産業となった養殖イワガキを『隠岐のいわがき』という名称でブランド化し、島根県のみならず全国へPRし、販路の拡大に成功。

〒684-0211 隠岐郡西ノ島町大字浦郷3534
08514-6-0381 pecten@lily.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶



おかだ さわ 岡田 紗和

持続可能な作るところから食るところまで

概要

- 知夫村役場に移住相談に行ったご縁で令和3年から地域おこし協力隊として来島し移住。遊休農地を借り、村民の協力を得て開墾から土づくり。今では約50種類の野菜栽培と軍鶏を飼育。
- 自ら育てた食材を活かそうと古民家を借りて開いたフレンチレストランも今では、村民だけでなく隣島・本土からの来客で賑わっている。食品加工販売を手掛け、サステナブルな6次産業を展開。令和6年12月から古民家レストランに宿泊施設「オーベルジュ」を併設。観光客の呼び込みに寄与。

成果

- フレンチレストラン及び加工品の販売により売上が安定し、宿泊施設開業によって更なる売上増加を見込む。
- 食肉処理施設を建設し、知夫軍鶏のブランド化を目指す。
- 高品質な野菜、新鮮な魚介類と軍鶏を提供することにより、フレンチレストランを村民が食を楽しむ場として提供。村民の活力ある生活実現に貢献。



生き生きとした野菜たち



隠岐の海で獲れた食材（ある日の前菜より）



地鶏知夫軍鶏

〒684-0105 隠岐郡知夫村仁夫2293
090-6320-6988 ms.chezsawa@gmail.com

関連情報はこちら ▶



みなみかぜ

南風

島にあるもの全てが宝

概 要

- 隠岐の島町にIターンして約10年。その間に空き家を借り、平成29年に民宿「KUSUBURU HOUSE」をオープン。SNS等を活用し若い人たちに隠岐の島町の魅力を発信。
- 島内外に知り合いが増える中で、島へのUIターン者や島に興味ある者から「島の仕事が分からない」「住む処がない」、島の企業からは「人手が足りない」「事業が消えていく」等の声を聞き、移住者と地元企業等との情報交換の場として「移住者交流会」を企画。

成 果

- 令和6年5月、役場の町内放送や回覧板を活用して参加を募った「移住者交流会」には、予想を超える地元の住民や事業者が集まり、「こんなにIターン者がいたとは」「ビジョンを起こす人物の話を聞きたい」等、活発な意見交換の場となった。
- 顔を合わせた地道な交流を重ねることで、信頼が生まれ問題解決につながる。今後、人材紹介を含めた事業を立ち上げる構想を持った。



隠岐の島町保有施設での交流会の様子



3人グループに分かれフリートーク



交流会記念写真

〒685-0303 隠岐郡隠岐の島町南方1227-1
08512-3-1088 info@kusuburu-house.com

関連情報はこちら ▶

